様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００９７９

研究課題名（和文）「家」の後継者育成に関する歴史的研究

研究課題名（英文）A Historical Study on the succession planning in Japanese "Ie"

研究代表者
鈴木　理恵（Suzuki, Rie）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・教授

研究者番号：８０２１６４６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,300,000円

研究成果の概要（和文）：「家」における後継者育成の具体相について、どのような場で、どのような階梯で、何を伝えたか、だれが誰にどのような方法で伝えたか、伝えるしくみや工夫といった観点に留意して明らかにすることを課題とした。平安時代から現代まで通史的に、貴族・武士・農民・商人・神職などの諸階層を対象に、東日本から西日本にかけての各地のフィールド調査に基づいて研究を進めた。
その結果、各階層において、「家」独自の後継者育成機能や、それを支えた親族や同職仲間の役割があったことを実証的に明らかにした。研究成果をまとめた『家と子どもの社会史―日本における後継者育成の研究―』を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
教育史研究の主な関心は学校教育に向いてきた。そのため、前近代の子ども史研究では、手習塾や学問塾での教育が取り上げられる傾向にあった。また、「家」における子どもについても「家庭教育」の観点から知育やしつけに注目が集まりがちであった。
本研究では、子どもの労働や身体を通じた家業継承という観点を盛り込むことによって、平安時代から現代までの諸階層における後継者育成の具体相について通史的に描き出し、従来の学校教育中心の教育史研究に新たな枠組みを提示した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the specific aspects of succession planning in Japanese “Ie”.The characteristics of this study can be summarized in the following four points. First, the period from the end of the Heian period to the modern times was examined from a general historical perspective. Second, the study covered various classes of people, including aristocrats, samurai, farmers, merchants, and Shinto priests. Third, the study was based on field research throughout Japan. Fourth, it is the result of interdisciplinary joint research by researchers in history, sociology, literature, and education. The study empirically clarified the unique nurturing function of the “Ie” and the roles played by relatives and fellow workers who supported the “Ie”.We published a book entitled “Ie to kodomo no shakaishi :Nihon ni okeru kokeishaikusei no kenkyu”,which summarizes the results of our research.

研究分野：教育学

キーワード：「家」　家業　後継者　教訓　家訓　養子

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

前近代の日本は、「家」を基礎単位とする社会であった。本研究における「家」とは、「家業や家産を父子直系で継承し、永続を志向する組織体」を意味する。「家」はその成員にとって生活の拠り所であった。身分と職業が不可分であった前近代では、各々の「家」が家職を伝えていくことによって身分制社会が維持された。それゆえに、「家」の存続は当事者のみならず社会的な要請であり、後継者育成は諸階層で広汎に営まれた。近現代社会において、制度や社会的単位としての「家」は消えたが、「家」の意識は消え去っていない。

子どもの社会化にとって「家」が重要な役割を果たしたことは言うまでもない。しかしながら、従来の教育史学は、「家」の後継者育成に関する研究を等閑に付してきた。その要因として、教育史学が研究の重点を学校教育に置いてきたことが挙げられる。学校の知育に関心が集中する現代社会を反映して、家業を継がせるための子どもの労働役割についてはほとんど研究の対象にならなかった。こうしたことが、前近代においてヒトはいかにして人（「家」の後継者）となったのか、という重要な課題を未解明のままに残しているのである。

そこで本研究では、教育学・歴史学・社会学・文学の研究者 11 名を結集した学際的研究によって、諸階層の「家」における後継者育成がどのような環境、階梯、方法でおこなわれたかという具体相を通史的・実証的に明らかにすることを目指した。

２．研究の目的

「家」における後継者育成の具体相を明らかにするために、以下の 3 点を目的として設定した。なお、本研究では「後継者育成」を、「父祖などが子弟に、「家」の後継者として必要な技能・知識・態度・所作・芸能等を授けること、あるいは身につけさせるべく差配すること」といった意味で使用している。

(1)貴族の「家」が成立した平安末期から庶民に一般化した江戸時代までを対象に、諸階層において「家」の後継者育成はどのような環境、階梯、方法で行われたかという具体相について、通史的、実証的に明らかにする。その際の具体的な視点は、次のとおりである。

どのような場・機会で教えたか、何を伝えたか（日記・蔵書・わざ・口伝・儀式作法・政治的地位等）、どのような順序で教えたか、どのように教えたか（対面・文字・模倣・口授）、誰が誰に伝えたか（嫡子・養子）、伝えるしくみや工夫（親族や「家」のネットワーク）

また、明治時代から高度経済成長期についても、近代法体系による「家」の再編、あるいは学歴主義と「家」継承問題の軋轢という観点から、後継者育成の変容過程を解明することを目指した。

(2)後継者育成が広汎に営まれた江戸時代には、各階層内ではもちろん、階層を超えて、育成方法に共通点があったのではないかという仮説のもとに、共通項を探り出す。

(3)以上から得られる知見を通じて、日本の「家」の後継者育成の特徴を解明する。

３．研究の方法

(1)近代的概念「家庭教育」にとらわれない視点

家庭は、近代以降、学校教育の下請けや補完の役割を担うようになった。そのため、従来の子ども史研究も「家庭教育」の範疇で行われてきた。「家」のなかで子どもが養育された過程や成育儀礼を対象とした研究が多く、子どもが手習塾や学問塾でなにを学んだかといった知的教育に関心が向きがちであった。本研究では、家業を継がせるための子どもの労働役割に注目した。従来、子どもの労働はほとんど研究対象とならなかったが、後継者育成の観点からすれば、子どもの労働こそ重要である。

(2)諸史料に基づいた実証的研究

従来、「家」の継承に関する教育史研究では、家訓から、徳目、教育観、後継者の心得などを導き出す方法が採られてきた。家訓は後継者に伝えられた結果物に過ぎない。本研究では、後継者育成過程の実態を解明することを目的に、諸史料を使用した。中世を対象にした研究では、貴族の日記や『吾妻鏡』などを使用した。近世や近代移行期を扱った研究では、各地の旧家に残された史料を調査した。現代を扱った研究では、雑誌記事、あるいはアンケート調査やインタビュー調査から得られた情報をもとにした。これら収集した史料や情報に基づいて、後継者育成の具体相を実証的に描き出した。

(3)社会の構造としてとらえる視点

「家」は血縁関係にある親子だけでなく、擬制的家族を含む経営体組織である。後継者育成は、経営体である「家」や、その「家」を基礎とする社会全体の問題としてとらえるべきである。そこで、「家」のなかでの父祖から子弟への教えによって、単に子が父の地位を継いだというにとどまらず、個人間の営みを超えて「家」の再生産にどのようにつながったのかという視点を導入した。

４．研究成果

本研究は、貴族・武士・農民・庄屋・商人・神職などの諸階層について、平安時代末期から現代までを通史的に、東日本から西日本にかけての各地のフィールド調査に基づいて、後継者育成の具体相を明らかにすることを目指した。研究成果を通史的にまとめれば、以下のようになる。

(1) 院政期の貴族（摂関家）

摂政や関白になる過程で、大臣として内弁、官奏、執筆の三役を務めなければならなかった。三役は重要な職務であり、長年の経験や知識を必要とした。しかし、摂関家子弟は昇進が速く、若年で三役に当たらざるを得なかった。そこで、摂関家では三役に関する秘説を形成し、それを父祖が子弟に教える方法を採用した。この方法によれば、秘説を確実かつ排他的に子弟に伝えることができ、後継者は短期間で効率的に三役に関する儀式作法を習得できた。当時の一般的な相承は未練の者が不審点を問い先達が答えるかたちで進められたが、いち早く家格が成立した摂関家では、軌を一にして、父祖が主導的に教えるという育成方法を採用したのである。

(2) 鎌倉時代の武士（御家人）

鎌倉殿に奉仕した武士である御家人にとって、「家業」とは、「弓馬の道」と「家」相応の官職、政治的地位や社会的役割を意味した。御家人の子弟は、父親や指南役の指導のもとで、幼少期から小弓と乗馬を修得し、成長に伴い、騎射の訓練や狩猟に参加しての実践的な訓練を積んだ。武芸のほかに、文字に認められた故実も相伝された。着袴後から鎌倉の寺院で学問も始め、元服後には主家に出仕して礼儀や作法を学んだ。幼少期から重職を担わなければならない場合にも、一門や家人などが支える体制が形成されていた。

(3) 江戸時代の農民

陸奥国安達郡仁井田村の 150 年間に及ぶ宗門人別改帳を歴史人口学的手法にもとづいて分析した結果、女児については、10 歳の時点で 9 割が実母あるいは同性の年長者と同居していたことから、婚出前に実母から学べたことが示された。男児については、15 歳の時点で 9 割以上が実父と暮らしていたことから、一人前に成長する前に実父から生活の術を学べた可能性が示唆された。東北農村では、早婚によって世代サイクルを短くすることにより、次世代の育成者が確保されていたことが明らかとなった。

(4) 江戸時代中期以降の豪商

三井家の家法では、同族子弟に習学（家業見習い）を課した後に三井の事業に参画させるように定められていた。同族長井家の三代目高義は、力量不足から 7 回の習学を課された。高義を受け入れた営業店舗では、三井家同族首脳陣の指示を受けて高義の問題行動に対応した。また、京本店は高義が習学に臨む際に種々の禁止事項を伝えた。三井という大きな経営体のなかでの後継者育成が、京本店と同族首脳陣らの指示のもとで習学先の店舗が対応しておこなわれていたことが明らかになった。

(5) 江戸時代後期の藩儒

広島藩儒頼春水は江戸勤番が長かったことから、留守を預かった妻が春水と連絡をとりながら長男久太郎を後継者に育てた。また、親族による学業教育や家族外教育も施された。その後、春水夫婦は、後継男子を二度失うという「家」の危機を乗り切った。「家」の家政を担う主婦の育成は、結婚後に婚家で開始された。藩儒頼家の主婦は、家祭を執行する知識と技能を必要としたから、春水の妻は、後継主婦となる女性に、それらを修養させた。従来、「家」のなかの女性の役割は見過ごされがちであったが、後継主婦育成という視点から明らかにした。

(6) 江戸時代後期の庄屋

愛媛県宇和島市の旧庄屋毛利家に残された書籍のうち、漢籍、漢詩類、漢詩文作成のための辞書類、往来物・教訓書など 24 点が四代当主元長によって所持され、あるいは使用されていた。庄屋に必要なリテラシーとして筆算のほか書物も少々は読めるということが地域の庄屋層の間で共有されていたこと、毛利家の後継者がそれを前提として学習を進めていたことを明らかにした。

(7)江戸時代後期の武士（大名家臣）

旗本夏目家や桑名藩松平家家臣渡部家の事例をもとに、後継者の成長過程での学習が、祖父や父から手習いや素読を学んだ後に、父祖により選ばれた外部の師匠に任されていた実態を明らかにした。また、佐倉藩堀田家の家臣を事例としてとりあげ、父祖が未経験の職に就いた時に、先任者から借りた手控えによって情報を得ていた様相を明らかにした。幕藩官僚制の展開によって、「家」の当主としての地位と奉公上の職務内容が連動しなくなると、「家」同士が情報を融通して体制を維持していたことが示された。

(8)明治初期の伊勢御師

伊勢御師溝口家の継嗣である幹は、12 歳から父の廻檀につきそい、伊勢滞在時には家の勘定や祓式などの仕事を担った。幹にとって、御師の継嗣としての活動を可能にしたのが、私塾や学校での学びや読書、その人的ネットワークだった。また、幹は、学んだ書籍の内容を、廻檀先で講釈や講談として聞かせた。伊勢御師の継嗣の育成が、神職のネットワークのなかで進められていたことや、御師が檀家のニーズに対応して学んでいたことを明らかにした。

(9)明治初期の旧藩士

旧松山藩士菱田家当主の中行は慶應義塾に進み、キリスト教と出会った。その子息正基も、キリスト教徒であったが、旅順でサロンを開催して旧松山藩の人脈に拠った文学活動を展開した。父子ともにキリスト教に精神を捧げ、松山から遠く離れて暮らしても、心中に常に松山藩が大きな位置を占めていた。それは郷土愛というよりも、旧松山藩の名家としての矜持から来るもので

あった。大政奉還以後の価値観が転倒するなかでも、幕藩体制下の「家」意識を棄てることはできなかったのである。

(10)第二次世界大戦後の農民

1952 年に設立された千葉県立農村中堅青年養成所は、社会科学を土台としたカリキュラムによって「考える農民」の育成を目指した。しかし、そこで学んだ女性たちは、抑圧された母親の人生を乗り越えることを目指しながらも、全否定できないでいた。農業普及誌『農業千葉』の表紙を飾った女性たちの語りからは、家族自営によって働く自らの環境を肯定的にとらえ、子育てや家事に時間をとりたいという近代家族意識が読み取れた。新しい時代の農業後継者育成が目指されるいっぽうで、戦前から続く農村と家族経営が厳然として存在し、農業継承が「家」継承に直結するような状況があった。社会が大きく変化する時期において、後継者育成は、「家」が継承されるべきという価値意識を伴わなければ実現不可能になっていくことが示された。

(11)高度経済成長期以後の食堂経営者

大衆食堂の力餅食堂は、明治 22 年以来、創業者の郷里である但馬地方から住込み従業員を受け入れ、暖簾分けによって京阪神地域に店舗を拡大した。力餅食堂の暖簾は早くから創業家の系譜を離れ、本店などの干渉を受けずに地域に密着した自由な経営ができた。高度経済成長期の従業員不足は暖簾の父子継承への収斂をもたらしたが、経営主は必ずしも子どもに継承を望んだわけではなく、「あるべき家族」像へのこだわりから、むしろ学歴志向が高かった。結果的には、学歴主義の浸透は後継者不足による暖簾の縮小へとつながった。

以上のように本研究では、「家」独自の後継者育成機能や、それを支えた親族や同職仲間の役割があったことを実証的に明らかにした。これらの研究成果をまとめた『家と子どもの社会史―日本における後継者育成の研究―』を出版した。

しかし、「家」の後継者育成の研究は緒に就いたばかりである。日本の後継者育成の特徴の解明は課題として残った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計27件（うち査読付論文　10件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 福田安典	４．巻 17
２．論文標題 名医伝と藪医譚との間	５．発行年 2020年
３．雑誌名 国際日本学	６．最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福田安典	４．巻 17
２．論文標題 井上蝶庵『連歌提要』と上田秋成	５．発行年 2020年
３．雑誌名 上方文藝研究	６．最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福田安典	４．巻 60
２．論文標題 伊達家の歌会（吉村・村倫・重村の和歌）ー日本文学科所蔵資料から―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 国文目白	６．最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福田安典	４．巻 70-3
２．論文標題 高校に古典は本当に必要かー高校生との対話を通じてー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本文学	６．最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 李環媛・呉貞玉・山根真理・平井晶子	4．巻 175
2．論文標題 性別役割意識と実態	5．発行年 2020年
3．雑誌名 研究集録	6．最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平井晶子	4．巻 56
2．論文標題 Berry, Mary E. and Yonemoto, Marcia eds., 2019, What Is a Family? Answer from Early Modern Japan. University of California Press,	5．発行年 2020年
3．雑誌名 人口問題研究	6．最初と最後の頁 93-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤方博之	4．巻 171
2．論文標題 （史料紹介）佐倉藩出羽飛地領締役の御用留『万手扣』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 駿台史学	6．最初と最後の頁 133-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 奥井亜紗子	4．巻 56
2．論文標題 労働力型都市移動と同郷ネットワークの「論理」― 但馬出身者による京阪神都市圏下大衆食堂の展開を事例として―(共通テーマ 人の移動からみた農山漁村―村落研究の新たな地平)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 村落社会研究	6．最初と最後の頁 57-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木理恵	4．巻 32
2．論文標題 明治期再興後の咸宜園	5．発行年 2020年
3．雑誌名 教育科学	6．最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西村浩子	4．巻 29
2．論文標題 大正期の少女のことばと生活―愛媛県上浮穴郡久万高原町大川土居家の子ども（土居芳枝）の日記から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 松山東雲女子大学人文科学部紀要	6．最初と最後の頁 42-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋秀樹	4．巻 120-12
2．論文標題 『吾妻鏡』の文書利用について―頼経将軍記を中心に―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国学院雑誌	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋秀樹	4．巻 860
2．論文標題 鎌倉時代の恋愛事情―『民経記』と『明月記』から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本歴史	6．最初と最後の頁 42-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋秀樹	4．巻 852
2．論文標題 鎌倉幕府成立は「イイハコ」になったのか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本歴史	6．最初と最後の頁 64-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤方博之	4．巻 45
2．論文標題 佐倉藩飛地領の支配と地域社会に関する試論	5．発行年 2020年
3．雑誌名 山形県地域史研究	6．最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 奥井亜紗子	4．巻 35・36
2．論文標題 大衆食堂経営主の「暖簾分け」と同業ネットワークー「力餅食堂」を事例として	5．発行年 2019年
3．雑誌名 社会学雑誌	6．最初と最後の頁 128-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/E0041985	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福田安典	4．巻 16
2．論文標題 上方論争史を考えるために―『薬選』『非薬選』を中心に―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 上方文芸研究	6．最初と最後の頁 52-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福田安典	4．巻 110
2．論文標題 神の国のほとりの方丈―『方丈記』異本―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 近世文芸	6．最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福田安典	4．巻 1
2．論文標題 障害史研究（Disability History Studies）のための日本古典文学研究序説	5．発行年 2020年
3．雑誌名 障害史研究	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福田安典	4．巻 17
2．論文標題 名医伝と藪医譚との間	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国際日本学	6．最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米村千代	4．巻 70-4
2．論文標題 書評：首藤明和・王向華編『日本と中国の家族制度研究』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 社会学評論	6．最初と最後の頁 423-433
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 David R. BOGDAN, Yasunori FUKUDA	４．巻 65
２．論文標題 Hiraga Gennai, Rangaku, and Foreign Language	５．発行年 2018年
３．雑誌名 愛媛大学教育学部紀要	６．最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木理恵	４．巻 64
２．論文標題 蔵春園の教育活動	５．発行年 2019年
３．雑誌名 教育学研究紀要（CD-ROM版）	６．最初と最後の頁 84-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋秀樹	４．巻 23
２．論文標題 兵庫県立歴史博物館所蔵『源平合戦図屏風』（三浦・畠山合戦図）について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 三浦一族研究	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 米村千代	４．巻 31巻2号
２．論文標題 『家族社会学研究』2010年以降の展開	５．発行年 2018年
３．雑誌名 家族社会学研究	６．最初と最後の頁 221-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋秀樹	４．巻 122巻11号
２．論文標題 『勘仲記』を観る	５．発行年 2021年
３．雑誌名 国学院雑誌	６．最初と最後の頁 311-331
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平井晶子	４．巻 38号
２．論文標題 三〇〇年からみる日本の家族と人口	５．発行年 2021年
３．雑誌名 社会学雑誌	６．最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鈴木理恵	４．巻 33号
２．論文標題 明治中期の識字状況	５．発行年 2022年
３．雑誌名 教育科学	６．最初と最後の頁 5-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 鈴木理恵
２．発表標題 摂関家の後継者育成―藤原頼長を中心にー
３．学会等名 中国四国教育学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 落合恵美子・森本一彦・平井晶子
２．発表標題 アジアの家族と親密圏
３．学会等名 比較家族史学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 平井晶子
２．発表標題 外国人住民の結婚と出生
３．学会等名 日本人口学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 高橋秀樹
２．発表標題 藤波家旧蔵史料の現状と伝来
３．学会等名 國學院大學
４．発表年 2021年

１．発表者名 山根真理・李璟媛・平井晶子・呉貞玉
２．発表標題 世代間関係と支援ネットワーク
３．学会等名 第66回比較家族史学
４．発表年 2019年

１．発表者名 奥井亜紗子
２．発表標題 労働力型都市移動と同郷ネットワークの「論理」ー但馬出身者の京阪神都市圏における大衆食堂の展開を事例としてー
３．学会等名 日本村落研究学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木理恵
２．発表標題 明治期再興後の咸宜園
３．学会等名 教育史学会第63回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木理恵
２．発表標題 咸宜園塾主広瀬家の後継者育成
３．学会等名 中国四国教育学会第71回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤方博之
２．発表標題 近世大名家臣の「家」をめぐる共同性
３．学会等名 東北アジア研究談話会11月例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 米村千代
２．発表標題 Comment for ‘Fantasy and Agony of International Marriage: Stories of Korean Men’(Discussant)
３．学会等名 the 2018 KFSA-JSCFH Joint Conference “Intimate Relationships: Korea-Japan Comparative Perspective”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 平井晶子
２．発表標題 企画セッション「人口からみた近代移行期の日本：近代移行期の世帯と家族」
３．学会等名 日本人口学会大会（第73回）
４．発表年 2021年

１．発表者名 藤方博之
２．発表標題 近世武家社会における養子制度の理念と運用
３．学会等名 東北アジア研究センター創設25周年国際シンポジウム
４．発表年 2021年

１．発表者名 米村千代
２．発表標題 家族研究における『家』と封建遺制 沈黙と忘却を超えて
３．学会等名 日本社会学史学会記念大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計24件

1．著者名 松井忍　編著、寺島徹　編著、服部直子　編著、福田安典　編著	4．発行年 2020年
2．出版社 和泉書院	5．総ページ数 736
3．書名 伊予俳人　栗田樗堂全集	

1．著者名 油井清光、白鳥義彦、梅村麦生、平井晶子、小島奈名子、林大造、酒井朋子、後藤吉彦、徳田剛、東園子、田村周一、雑賀忠宏、今井信雄、藤岡達磨、佐々木祐、竹中克久、大久保元正	4．発行年 2020年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 288
3．書名 社会学	

1．著者名 荒武賢一朗、野本禎司、藤方博之	4．発行年 2020年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 264
3．書名 みちのく歴史講座　古文書が語る東北の江戸時代	

1．著者名 青木博史、有田節子、有元光彦、江口泰生、岡島昭浩、荻野千砂子、勝又隆、川瀬卓、衣畑智秀、清田朗裕、久保薗愛、東寺祐亮、新野直哉、西村浩子、平子達也、堀畑正臣、前田桂子、松浦年男、村山実和子、森脇茂秀	4．発行年 2021年
2．出版社 風間書房	5．総ページ数 518
3．書名 筑紫語学論叢Ⅲ	

１．著者名 高橋秀樹編	４．発行年 2020年
２．出版社 和泉書院	５．総ページ数 384
３．書名 新訂吾妻鏡四	

１．著者名 大谷歩、中野渡俊治、岩田真由子、高松百香、告井幸男、三谷芳幸、三上喜孝、 野口華世、高橋秀樹、小川剛生、清水克行、遠藤珠紀、畑尚子、松澤克行、大藤修、綿抜豊昭、箱石大、千葉功、土田宏成、小山静子	４．発行年 2021年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 256
３．書名 恋する日本史	

１．著者名 高橋秀樹・櫻井彦・遠藤珠紀	４．発行年 2019年
２．出版社 八木書店	５．総ページ数 304
３．書名 史料纂集　勘仲記　第六	

１．著者名 勝又基、猿倉信彦、前田賢一、渡部泰明、福田安典、飯倉洋一	４．発行年 2019年
２．出版社 文学通信	５．総ページ数 217
３．書名 古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。	

1．著者名 松井忍、寺島徹、服部直子、福田安典	4．発行年 2020年
2．出版社 和泉書院	5．総ページ数 705
3．書名 伊予俳人　栗田樗堂全集	

1．著者名 陳捷、福田安典、真柳誠、浦山きか、朴現圭、梁永宣、李敏、金哲央、小野泰教、吉田忠、祝平一、大澤顯浩、廖肇亨、高津孝、久保輝幸、平野恵、清水信子、鈴木俊幸、ほか2名	4．発行年 2020年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 439
3．書名 医学・科学・博物　東アジア古典籍の世界	

1．著者名 米村千代、西野理子、安藤究、釜野さおり、井口高志、木戸功、石井クンツ昌子、工藤豪、和泉広恵、阪井裕一郎、岡田あおい、嶋崎尚子、清水洋行、筒井淳也、千田有紀、藤間公太、田渕六郎、永井暁子、田間泰子、中西泰子、ほか13名	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 183
3．書名 よくわかる家族社会学	

1．著者名 野尻泰弘・藤方博之・長谷川佳澄・林聡香・水上たかね・崎島達矢・下田桃子・鈴木三美子・黒滝香奈編	4．発行年 2019年
2．出版社 明治大学文学部野尻泰弘研究室	5．総ページ数 277
3．書名 史料集　佐倉藩幕末分限帳	

１．著者名 高橋秀樹編	４．発行年 2018年
２．出版社 和泉書院	５．総ページ数 392
３．書名 新訂吾妻鏡三　頼朝将軍記3	

１．著者名 鈴木理恵編、鈴木理恵，高橋秀樹，平井晶子，下向井紀彦，棚橋久美子，西村浩子，藤方博之，松尾由希子，福田安典，米村千代，奥井亜紗子	４．発行年 2022年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 320
３．書名 家と子どもの社会史ー日本における後継者育成の研究ー	

１．著者名 鈴木理恵	４．発行年 2021年
２．出版社 広島大学出版会	５．総ページ数 290
３．書名 咸宜園教育の展開	

１．著者名 高橋秀樹・櫻井彦・遠藤珠紀編	４．発行年 2021年
２．出版社 八木書店	５．総ページ数 250
３．書名 勘仲記　第七	

１．著者名 高橋秀樹	４．発行年 2021年
２．出版社 東京大学史料編纂所	５．総ページ数 257
３．書名 藤波家旧蔵史料の調査・研究ー2019年度・2020年度一般共同研究 研究成果報告書ー	

１．著者名 高橋秀樹	４．発行年 2021年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 220
３．書名 対決の東国史２　北条氏と三浦氏	

１．著者名 森本一彦・平井晶子・落合恵美子編	４．発行年 2022年
２．出版社 有斐閣	５．総ページ数 442
３．書名 家族イデオロギー　リーディングス　アジアの家族と親密圏	

１．著者名 平井晶子・落合恵美子・森本一彦編	４．発行年 2022年
２．出版社 有斐閣	５．総ページ数 489
３．書名 結婚とケアーリーディングス　アジアの家族と親密圏	

１．著者名 落合恵美子・森本一彦・平井晶子	４．発行年 2022年
２．出版社 有斐閣	５．総ページ数 478
３．書名 ジェンダーとセクシュアリティーリーディングス　アジアの家族と親密圏	

１．著者名 野本禎司・藤方博之編、野本禎司,藤方博之,菅野智則,柴田恵子,荒武賢一朗,黒田風花,清水翔太郎	４．発行年 2022年
２．出版社 岩田書院	５．総ページ数 352
３．書名 仙台藩の武家屋敷と政治空間	

１．著者名 水島治郎・米村千代・小林正弥編、川瀬貴之,小林正弥,金澤悠介,水島治郎,濵田江里子,米村千代,五十嵐誠一,李想,日野原由未,石戸光,藤澤巌	４．発行年 2021年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 296
３．書名 公正社会のビジョン	

１．著者名 赤川学・祐成保志編、葛山泰央,佐藤雅浩,秦泉寺友紀,清水亮,野上元,李永晶,高野光平,米村千代,祐成保志,赤川学	４．発行年 2022年
２．出版社 新曜社	５．総ページ数 221
３．書名 社会の解読力　＜歴史編＞　現在せざるものへの経路	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	西村　浩子（西村浩子） (Nishimura Hiroko) (20248339)	松山東雲女子大学・人文科学部・教授 (36303)	
研究分担者	棚橋　久美子 (Tanahashi Kumiko) (30186316)	広島国際学院大学・工学部・研究員 (35406)	
研究分担者	平井　晶子 (Hirai Shoko) (30464259)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	松尾　由希子 (Matsuo Yukiko) (30580732)	静岡大学・教職センター・准教授 (13801)	
研究分担者	福田　安典 (Fukuda Yasunori) (40243141)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	
研究分担者	藤方　博之 (Fujikata Hiroyuki) (40727674)	東北大学・東北アジア研究センター・助教 (11301)	
研究分担者	奥井　亜紗子 (Okui Asako) (50457032)	京都女子大学・現代社会学部・准教授 (34305)	
研究分担者	高橋　秀樹 (Takahashi Hideki) (70821990)	國學院大學・文学部・教授 (32614)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	米村　千代 (Yonemura Chiyo) (90262063)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	下向井　紀彦 (Shimomukai Norihiko)	公益財団法人三井文庫・社会経済史研究室・研究員	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関